（２）未来への飛躍を実現する人材の養成

～変化や新たな価値を主導・創造し，社会の各分野を牽引していく人材～

（多様な個性・能力の最大限の伸張）

○　我が国が，東日本大震災からの復興を成し遂げるとともに，変化の激しい社会において引き続き成長発展するためには，グローバル化等に対応しつつ新たな社会的・経済的価値を創出することが必要である。そのために個人の多様な個性・能力を最大限伸ばし社会の中で生かすことができる教育環境の整備が必要である。

（基盤としての「社会を生き抜く力」）

○　この視点は，各分野の最先端の場のみならず，身近な生活・地域社会の場においても必要と考えられ，そのために必要な能力は，特定の人材だけではなく，全ての人材にとって必要なものと考えられる。このため，あらゆる社会生活の場面における基盤となる能力として，（１）で述べた「社会を生き抜く力」の養成を通じた国民全体の水準向上が第一に必要である。

（グローバル社会の中で特に求められる力）

○　その上で，グローバル化が進行する社会においては，多様な人と関わり様々な経験を積み重ねるなど「社会を生き抜く力」を身に付ける過程の中で，未来への飛躍を担うための創造性やチャレンジ精神，強い意志を持って迅速に決断し組織を統率するリーダーシップ，国境を越えて人々と協働するための英語等の語学力・コミュニケーション能力，異文化に対する理解，日本人としてのアイデンティティなどを培っていく視点も今般一層重要になっているものと考えられる。

（未来への飛躍を実現する人材の養成）

○　以上を前提として，本項目では特に，社会全体の変化や新たな価値を創造し主導するような，イノベーションの推進を担う人材，社会の各分野を牽引するリーダー，グローバル化の中にあって世界のどこにおいても様々な人々と協働し，自らの意見も主張していけるような人材の養成に着目した目標・具体的施策を掲げることとする[*10]。

（養成にあたって重視すべき考え方）

○　上記人材を養成するための考え方・方策として，例えば，以下の点を重視することとする。

・若い段階で海外に出て，外から日本を見る機会を増加させること
・優れた能力と多様な個性を伸ばす環境を醸成すること
・異能の人たちの融合を生みやすい環境を構築すること
・既存の枠，常識にとらわれない，多くの価値観から生まれる高い志を持つ多様な背景の若者たちが切磋琢磨する場を構築すること
・共通の視点として，人権尊重や社会貢献の意識が根底になければならないこと　　など

○　特に，学生たちに深い専門性を培わせることを使命とする高等教育機関が果たすべき役割は極めて大きい。海外留学の促進や外国人留学生との学び合い・協働，大学等の国際化や質の高い大学院教育の提供，秋季入学に向けた環境整備などを，産学官が一体となって，積極的に推進していく必要がある。

○　なお，各方策を検討するに当たっては，教員の職務の状況・在り方や，外部の優れた人材の活用が欠かせないこと等を踏まえる必要がある。

---

*10 ＜他の指針等において示された考え方等＞

○長期戦略指針「イノベーション２５」（平成１９年６月１日　閣議決定）

「イノベーション」について，「技術の革新にとどまらず，これまでとは全く違った新たな考え方，仕組みを取り入れて，新たな価値を生み出し，社会的に大きな変化を起こすこと」と定義した上で，基本的な考え方として，以下の５点を提示。

①未来に向けての高い目標設定と挑戦
②グローバル化と情報化の進展への的確な対応
③生活者の視点の重視
④多様性を備えた変化と可能性に富む社会への変革
⑤「出る杭」を伸ばす等人材養成が最重要

また，①に関連し，出発点として，「一見不可能とも思える高い目標」「困難に立ち向かいそれを現実のものにしようとするチャレンジ精神旺盛な人」「高い志を持った人たち」が存在していたことを指摘。

○科学技術基本計画（平成２３年８月１９日　閣議決定）

科学技術イノベーションを担う多様な人材を，中長期的な観点から，戦略的に育成，支援していくことが必要であり，国を挙げて科学技術イノベーションを強力に推進する観点から，優れた人材の育成及び確保に関する取組を強化していく旨記載。

○グローバル人材育成戦略（平成２４年６月４日　グローバル人材育成推進会議審議まとめ）

「グローバル人材」の要素として，以下の３点を提示した上で，要素Ⅰに関し，今後は，二者間折衝・交渉レベル及び多数者間折衝・交渉レベルの人材が継続的に育成され，一定数の「人材層」として確保されることが国際社会における今後の我が国の経済・社会の発展にとって極めて重要となる旨指摘。

（要素Ⅰ）　語学力，コミュニケーション能力
（要素Ⅱ）　主体性・積極性，チャレンジ精神，協調性・柔軟性，責任感・使命感
（要素Ⅲ）　異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ